人生100年時代の愉しみ方

いつまでも元気でい続けるために

今年の市長新春対談は、弁護士であり健康都市大学の名誉教授を務める大澤孝征さんをお招きしました。「人生100年時代」をテーマに、日々活躍する秘訣や健康都市大学への思いなどについて大いに語り合いました。

子ども時代の思い出

大木 大澤先生は生まれも育ちも大和でいらっしゃいます。小さい頃はどんなお子さんだったんでしょうか。

大澤 まあ、昔懐かしいわんぱく小僧でした。私は南林間にある幼稚園に行っていたんですが、脱走してね、幼稚園の先生が真っ青になって探し回って、ということを再三引き起こしていました。小学校は林間小学校なんですが、1年生のときには廊下を走らないで机の上を走っていたというような、元気はいいけれど、結構むちゃくちゃな、今ではあまり見掛けないわんぱくでしたね。

大木 小さい頃はまだ大和市になる前、大和町ですよね。どこかお気に入りの場所などはありましたか。

大澤 一番よく行ったところは相模カンツリー倶楽部ですね。相模カンツリー倶楽部のちょっと手前に、当時進駐軍と呼んでいたアメリカ軍の将校たちの将校ハウスがあったんです。あの家を見るのが楽しくて、実に探検に値する場所でしたね。どうしてかというと、まず当時のアメリカの標準的な家が分かる、平屋で芝生があって車が1台あって…昭和20年代ですよ。一番僕が衝撃を受けたのは蚊帳がなくて網戸があったということ、それで土足で入っていいということ。もうカルチャーショックですよ。だから相模カンツリー倶楽部とその周辺は探検するには非常にいい場所でしたね。

大木 まったく生活様式が違いますよね。

大澤 はい。あの辺がもう憧れの場所でした。それで自分が今、相模カンツリー倶楽部のメンバーになって役員までしているとなると、なんだかうれしいなと思います。